



ICTで市民の皆さんが しあわせ実感！

小野 次は、府中市が力を入れている教育×ICTで、国が進めるGIGAスクール構想を前倒しして、府中市の小・中学生、義務教育学校生に、タブレット型PC端末を配布し、端末を使った授業を行うスタート段階にきています。今後の展開や可能性を国丸アドバイザーいかがでしょうか。

国丸 まだ全国的にも始まったばかりで、いろいろと試行錯誤の段階ですが、想像以上に子どもたちが違和感なくPC端末を扱っていることにまずは、安心していきます。そして、教育コン

市役所自体もICT化やRPAを取り入れることで、市民の皆さんに対してどう利便性を上げていくのかという課題をもっています。

昨年度、市税や公共料金、窓口の手数料のキャッシュレス決済を可能にしたり、住民票や証明などのコンビニ交付などを可能にしました。また、1月から新しく、PayPayとのタグによる消費促進キャンペーンをしたり、「市役所、今までの違うな」と思ってもらえる取り組みを行っているところです。

テックも含めて、PC端末を使ったICTの教育の強みと、今までのように対人教育のいいところを、どうミックスしていくかというのは、学校現場や保護者の声をもっともっと出していただいて、ブラッシュアップしていきたいと思っています。

小野 先進教育のさらなる発展が楽しみなところですね。**国丸** 家庭での学習の課題だった環境も、全市内の光回線の整備をしていますので、かなりの家庭で問題ない状況になってきつつあります。

小野 白川支社長も母親として、家で子どもさんがそういうPC端末を使うのいかがですか。

白川 私の子どもっていつでも随分大きいですが、やっぱり何でもおもちゃにして使っていましたね。ただ、私もリアルで学べることを越えていくバーチャルはな

いと思ってるんですよ。リアリティってやっぱり実感すること、府中市の総合計画にある「しあわせ実感！」って言葉が、すごい素敵だなと思いました。

小野 私もその言葉が好きです。昨年11月に、NNTドコモ中国支社さんと地域活性化の連携協定を結ばせていただきました。ICTを活用した地域おこし、まちづくりについて、考えられることはどんなことでしょうか。**国丸** 府中市独自という点

ですと、SDGsの切り口を使って、この市独特のDX（デジタルトランスフォーメーション）を考えられるんじゃないでしょうか。例えば、高齢化と安全・安心という点ですが、健康管理や見守りだとか、そういう分野は非常に活用しやすいです。難しく考えずに、市民サービスの向上だとか、市民の方の利便だとか、安心だとか、そういったところに、活用されていければと思います。

小野 今、高齢化の話が出ましたので、小谷さんにお聞きしますが、ICTやデジタルの話をする、高齢者の方は、「我々には関係ないよ」って言われる方が多くいらっしゃる現状がありますよね。

小谷 私もさまざまなセミナーをさせていただく中で、そういった声はよく聞きます。ですが、まず高齢者の方にICTに触れてもらうというか、もうICTという言葉も出さないで簡単なことをやってみて、そこで「便利だな」って気付く。

あとは、どんなことができるようになっていきます。まずは最初の1歩で、身近な人と一緒にやってみることで、すね。例えば、お孫さんと通信アプリでやりとりをしてみたり、簡単なことからでも、まずやってみることで、すね。今、お正月で時間もありますし、帰省できなくて、会うことができない人もおられると思いますので、今からやってみましょう。**小野** 使い方をセミナーを開催していただけたら、私も参加させてもらいましょうか。ICTと相性のよい安全・安心の面では、まず、災害があったときにどう避難していくか、どう対応するか、ICTをどう絡めていけるかですね。

国丸 例えば、気象レーダーからの情報によって水門の管理をしたり、食料系の在庫管理をしたりなどいろいろありますが、府中市規模で考えますと、やはり、災害が起こった時の情報をいかに、避難する市民と職員が共有できるかですかね。IDタグみたいなものを使

い、居場所情報やどんな支援が必要なのか、服用している薬があるかなどの情報を登録しておく、誤りがなく、即座に判断できます。高齢者の健康維持、健康寿命の延伸などでは、バイタルデータですとか血圧計とか心電図が取れて、お医者さんのところに常時報告されて、ちょっとおかしいときに、連絡がくるみたいなことは、他の地域で取り組まれているので、いいですね。**小野** 確かに日々の健康管理が毎日できるとなると、高齢者の方だけでなく、子どもさんが離れて暮らしている場合の安心感にもつながってきそうですね。

国丸 今後として、申請書類の一本化や、市民の方が欲しい情報が集まっている情報提供アプリですとか、どんどん進めていきたいですね。プラスして、庁内のDXを抜本的に行っている、職員の皆さんの労働時間の短縮なども検討し、生産性と効率の向上を実現していかなきゃいけないと思います。

いろいろお話をお聞かせいただきました。最後にそれぞれ一言ずつ、今年の抱負などを伺いました。

幸せのためのICT

白川 しあわせ実感！って、素晴らしいと思ったんですね。だから、技術を皆さんが使いこなして「便利だな」「住みやすいな」と感じてほしいと思います。それに向けて、私たちもお手伝いしたいと思っていますし、やっぱりワクワクすること、考える時間を持つためにも、AIとか技術でやれる

ことはどんどんやってもらって、年齢関係なく皆さんに使いこなせるようになってほしいと思います。幸せを実感するためにICTがあることを、お伝えしたいですし、自分たちがどんな未来を作りたいかということ、皆さんで考えていただけたら、うれしく思います。

チャレンジの聖地であってほしい

小谷 ものづくり文化をこれだけ持っているというの、いろんな試行錯誤ができてくることだと思うんです。そのときに、ICTとかデジタルっていうのが、当然活躍するんです。ICT・デジタルって、無料で始められるツールもありますし、ドコモさんのスマホにして

も、低料金で使えるものが多いですし、何か始めてみるってことが、本当にたやすくできますよね。府中がこれから飛躍するにあたって、持ち前のチャレンジ精神を活かしながら、ICT・デジタルを掛け合わせて、まずはいろんなトライをしてみることだと思います。

バーチャルネットワークでつながる

国丸 地域の産業基盤の強化っていう課題が一つあったかと思いますが、起業していく人たちというのは、やはり、命を削って起業する方もいらっしゃると思います。そのあたりを、地域全体をエコシステムとして、売り上げが上がり、収益化するような格好の、地域づくりができたなら、というのが一つ。もう一つは、やっぱり人材ですとか、人口減少などが大きな課題になっています。バーチャルネットワークが広がって、

この地域に興味を持ってる人とか、知識のある人とながってほしいと思います。例えばIoTのデバイスとか、IoTのデバイスは、別にここにいないたって研究開発ができて、人が府中を中心に集まる以外にも、バーチャルコラボレーションを考えていけば、もっと大きなパワーが、ここに集約できるんじゃないかなと思います。その夢のある話を、意思のある若い人たちと、議論をしていきたいと思っています。

しあわせ実感！

小野 ICT都市ふちゅうの目的は、市民の方に幸せを実感していただく、住んでよかった、来てよかった、帰ってきてよかったと思っていただけのようなまちをつくらしていきたい。そのための一つの手法として、ICTの活用があると思って

いますので、皆さんと手を取り合いながら、実際に手を取るのにはコロナ禍では、控えますが、協力していただきながら、一緒になって市民の皆さんの幸せ作りに邁進していきたいと思っていますので、よろしく願います。